

## 「運動とスポーツの科学」投稿の手引き（オンライン用）

### 目次

- I. 投稿原稿の種類
- II. 投稿について
- III. 原稿作成上の注意

#### I. 投稿原稿の種類

1. 本編集委員会では、機関誌の掲載に相当であると認めた論文を以下の「論文種別に関する基準」に基づき種別します。

- 1) 総説

限定した研究領域に関する文献を中心に総覧したものであって、当該研究領域を体系的に述べてあるもの。

- 2) 原著論文

以下の各要件項目を充足していると認められた論文。

- ① 学術論文として完結していること。
- ② 体育・スポーツ学研究の発展に寄与できる論文であること。
- ③ オリジナル性が高く新知見を含んでいること。  
(新しい研究の方法・分析方法・実験方法の開発も含まれる。)
- ④ 研究の方法・分析方法が適切であり、データ分析においては標本数も十分であること。
- ⑤ 先行研究もあり、引用文献も十分にあること。

- 3) 研究報告

原著論文に比べて若干、資料数や分析方法に不十分さが残るが、オリジナル性もあり新知見を含んでいる論文で、その結果を報告することにより体育・スポーツ学の発展に寄与する速報性を認められた論文。

- 4) 事例報告

実践現場における事例などを直接的に研究に結びつけた論文で、オリジナル性があり新知見を含み、その体育・スポーツ学的方法学的価値を認められた論文。

## 5) 研究資料

調査や実験の結果や報告を主体としており文献や考察が不十分であるが、体育・スポーツ学の資料としての重要性を認められた論文。

## 6) 短報

原著論文より短く原則として刷り上がり 5 ページ以内であるが、研究の目的、方法、結果などが記述され、測定方法など限られた部分に関して新規性が認められた論文。また、本誌に短報として掲載された内容は、後に投稿することができるものとする。

## II. 投稿について

**必要事項を記入の上下記ウェブサイトアクセスし、「投稿マニュアル」にしたがって投稿して下さい。**

1. 原稿は、投稿規程にしたがって作成し、ウェブサイト (<http://jsspe.org/>) から「著作権譲渡承諾書」、「投稿論文チェック表」をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記要領にてアップロードして下さい。

### 1) 「著作権譲渡承諾書」について

「著作権譲渡承諾書」に論文タイトル（和文、英文の両方）を記入し、内容を確認の上、著者全員が直筆署名し、署名した日付を記入してスキャナ等で取り込んだ後、アップロードしてください。

### 2) 「投稿論文チェック表」について

投稿者（主著者）、論文タイトル（和文、英文の両方）を記入し、下記内容について確認・チェックし、最後に主著者の氏名を記載して下さい。

## 記述

- 原稿は、「投稿規程」および「投稿の手引き」の書式にしたがって記述した。
- 全角 40 字×30 行で作成した。
- 本文、文献表には頁番号、行番号（頁ごとに振り直し）を全ての頁に挿入した。
- 欧文抄録を作成した。（欧文投稿の場合は和文抄録を作成した。）
- 図表の番号と本文中の番号は一致している。
- 図表の挿入箇所を指定している。
- 図表は、そのまま印刷できるレベルである。
- 文献は、引用順にできている。

- 本文中の引用と文献との番号が一致している。
- 引用・文献の記載は、規程にしたがって作成した。
- 謝辞や付記は記入していない。

その他

- 「著作権譲渡承諾書」「投稿論文チェック表」がそろっている。
- 「著作権譲渡承諾書」に、著者すべて自署している。
- 投稿料を支払い、その支払書をスキャンしたものを用意している。
- 共同研究者すべての入会及び年会費の納入は終わっている。
- 刷り上がり頁が6頁（短報は5頁）を超過した場合には、1頁につき1万円を支払うことに同意する。

### 3) 支払書

投稿料を振り込んだ支払書をスキャナ等で取り込んだ後、アップロードしてください。

<オンライン投稿・投稿に関する問い合わせ>

オンライン投稿: <https://iap-jp.org/jpess/journal/>

日本運動・スポーツ科学学会 機関誌編集委員長 鈴川一宏

日本体育大学 衛生学・公衆衛生学研究室内

〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1

電話&ファックス：03-5706-0972

メール：kikanshi@jspess.org

## III. 原稿作成上の注意

### 1. 原稿のフォーマット

- ・投稿原稿は、和文ワードプロセッサで11ポイント以上の活字、A4版横書き、和文原稿の場合1ページ全角40字×30行とする。（英文綴りおよび数値は半角）
- ・上下左右に約3cmの余白をとり、フォントの大きさは11ポイント以上にしてください。
- ・本文は現代かなづかいとし、外国語をかな書きする場合は、カタカナ（全角）で表記してください。
- ・本文および文献表には、ページ毎に行番号を入れ、ページ下部中央に通し番号（ページ番号）をつけてください。

## 2. 論文作成上の注意

### 1) 題目

題目は、和英文ともに研究の内容を的確に表現しうるものであることが必要です。副題をつける場合には、コロン（:）で続けてください。英文タイトルの最初の単語は、品詞の種類にかかわらず第1文字を大文字にしてください。その他は、固有名詞など、特に必要な場合以外はすべて小文字とします。

### 2) 所属機関名および同所在地

所属機関名は著者、共著者ともに、省略せずに正式名称を書いてください。

- (1) 大学の所属が学部の場合は学部名を、大学院の場合は研究科名を明記してください。
- (2) 官公庁や民間団体の場合は部課名まで記入してください。

### 3) キーワード

キーワードは、論文の内容や特色を的確に示し、検索に役立ち得るものとしします。題目はそのまま検索の対象になりますので、題目に含まれていないものをキーワードとして記入してください。なお、キーワードは、3から5つまでを、和文と英文の両方で作成してください。

## 3. 本文

### 1) 見出し

見出し語は適宜用いることができます。

### 2) 符号

次のような符号を用いることができます。

- (1) ピリオド（.）およびコンマ（,）
- (2) 中黒（・）

相互に密接な関係にあつて、一帯となる文字や語句などを結ぶ際には中黒（・）を用います。アルファベット文字を用いた用語には、中黒は使えません。

[例] 被験者 S・K→S.K.

- (3) ハイフン（-）

これは対語・対句の連結、合成語、ページの表記に用い、半角とします。

- (4) ダッシュ（—）

全角1文字分のダッシュ（—）は期間や区間を示すのに用います。波ダッシュ（～）は原則として用いません。全角2文字分のダッシュ（——）は注釈的な説明をするのに用います。

(5) 引用符は、和文の場合には「」を、英文の場合には“”を用います。

(6) コロン（:）

副題、説明、引用文などを導く場合に用います。

(7) セミコロン（;）

複数の文献が連続する場合に用います。

(8) 省略符（…）

引用文の一部あるいは前後を省略する場合は、和文の場合には 3 点リーダー（…）、英文の場合には下付の 3 点リーダー（…）を用いてください。

### 3) 数字

(1) 数を表示する場合は、原則としてアラビア数字を用いてください。

(2) 文字や記号の隅につける添え字はその位置に明瞭に表記してください。

### 4) 単位

計量単位は、原則として、国際単位系（SI 単位系）とします。

### 5) 略語

論文中において高い頻度で使用される用語に対して、著者が便宜的に省略した語を用いる場合は、初出時に略さず明記し、（以下「……………」と略す）と添え書きしてから、以後その略語を用いるようにしてください。

### 6) 引用

論文中で文献を引用する場合には、基本的な文献を厳選し、正確に引用してください。引用した文献はすべて文献表に掲載してください。本文中の文献は原則として引用した文章の右肩に文献番号を上付きで示します。同一著者の文献が複数ある場合には、括弧内の数字をコンマ（,）でつなぎます。ただし、この方式で表記することが著しく困難な場合はこの限りではありません。

(1) 本文中で文献の一部を直接引用するときは、引用した語句または文章を、和文の場合には「」、英文の場合には“ ”でくくります。

[例]

「スポーツの可能性」<sup>1)</sup> という語句は…。

“olympic movement”<sup>1)</sup> の視点…。

世田谷ほか<sup>1)</sup> によれば…。

深沢<sup>1,2)</sup> による一連の研究では…。

世田谷・深沢<sup>1)</sup> によれば…。

Setagaya et al.<sup>1)</sup> によれば・・・。

Fukasawa<sup>1-3)</sup> の一連の報告によれば・・・。

(2) 翻訳書の著者を表記するときは、カタカナ表記とします。

[例]

アンダーソン<sup>1)</sup> は・・・。このアンダーソンの概念・・・。

(3) 翻訳書と原著の両方を引用したときには、翻訳書は上記 (2) にしたがって記入します。原著は英文表記とします。

[例]

Fukasawa<sup>2)</sup> によれば・・・。しかしながら、フカサワ<sup>2)</sup> のセタガヤ論では・・・、一方、Fukasawa<sup>3-5)</sup> の一連の著作では・・・。

## 7) 注記

注は本文あるいは図表で説明するのが適切ではなく、しかも補足的に説明することが明らかに必要なときのみ用います。その数は最小限にとどめてください。注をつける場合は、本文のその箇所に注<sup>1)</sup>、注<sup>2)</sup>のように通し番号をつけ、本文と論文末の文献表との間に一括して番号順に記載します。注記の見出し語は「注」とします。

## 8) 特殊文字

### (1) ゴシック

ゴシックは見出し語のみに使用し、本文中の特定語句を強調するためのゴシック体の使用はさけてください。

### (2) イタリック

次の場合にはアンダーラインを用いてイタリック体を指定することができます。

- ① 数式中の数
- ② 数値や量
- ③ 統計法に用いられる記号
- ④ 動物・植物の学名

本文中の欧語を強調するためにイタリック体を使用することは、引用の場合などを除いて避けてください。

### (3) アンダーライン

文意を強調するためのアンダーラインは使用しないでください。

## 4. 図表の作成

図表には、それぞれに必ず通し番号とタイトルおよび内容、説明文 (Figure Legends) をつけ、本文とは別に PDF ファイルにてアップロードしてください。図表のタイトル

および内容、説明文 (Figure Legends) については、掲載確定後に Microsoft Office Word にて提出して頂きます。なお、掲載される場合のフォントの大きさは、和文の場合は明朝体 8 ポイント、英文の場合は Century 9 ポイントを目安としてください。また、図表の挿入箇所を本文中に指定してください。

図題、表題、それらの見出しや説明文、注は、できるだけ英文とすることが望ましいですが、同一論文で和文と英文の併用はさけてください。

なお、表注は表の下に一つ一つ改行し、注符号は上つきダガーで †, ††, ††† などの順に用い、アスタリスク (\*, \*\*, \*\*\*) は統計学上の有意水準を示すときにのみ用いるものとします。

写真は白黒の鮮明な画面のものとし、画素数が 300dpi の PDF ファイルで投稿して下さい。

## 5. 文献について

原則として文献表を本文の最後に引用順に一括して掲載し、本文中の右肩か、著者名の右肩に末尾の文献出典記載に照応する文献番号をつけてください。

### 文献表の作成

文献表の見出し語は「文献」とします。文献の記載は引用順とし、書誌データには通常、著者名・発行年・題目(書名)・誌名・出版社・ページなどの情報が含まれます。書式は原則として、下記の例にならってください。

#### 1) 定期刊行物(いわゆる雑誌)の書き方

定期刊行物の場合の書誌データの表記は、著者名(発行年)論文名・誌名、巻(号): ページ. の順とします。

##### (1) 著者名および発行年

共著の場合、和文の場合にはコンマ(、)、英文の場合には“and”で続けます。ただし、英文で3人以上の場合にはコンマ(、)でつなぎます。発行年は著者名のすぐ後の( )内に記入し、論文名と区切ります。

著者名の前に掲載順を記してください。

##### [例]

世田谷一郎, 深沢二郎, 鴨志田三郎 (1990)

Gushiken T. and Suzukawa K. (2014)

Ochi E., Nakazato K., Song H. (2008)

##### (2) 論文名

論文名の最後はピリオド(.)を打ちます。英文では、題目の最初の文字だけを大

文字にします。

(3) 誌名

和文誌の場合は略記せず、必ず誌名全体を記載してください。英文誌の場合は、その雑誌に指定された略記法、または広く慣用的に用いられている略記法にしています。それ以外は省略しないでください。誌名の最後はコンマ(,)をつけてください。

(4) 巻号およびページ

巻数の後にコロン(:)をつけ論文の開始ページと終了ページを省略しないでハイフン(-)で結び、最後にピリオド(.)を打ちます。同一巻が通しページとなっていない場合には、号数を( )で巻数の後に示します。

[例]

Ochi E., Ishii N., Nakazato K. (2010) Time Course Change of IGF1/Akt/mTOR/p70s6k Pathway Activation in Rat Gastrocnemius Muscle During Repeated Bouts of Eccentric Exercise. *J. Sports Sci. Med.*, 9: 170–175.

谷釜尋徳 (2012) 近世後期における江戸~唐津間の旅のルートと歩行距離について~弘化3年『江戸ヨリ唐津迄道中記』の分析から~. *運動とスポーツの科学*, 18: 17-27.

(5) 早期公開論文

正式に発刊される前の早期公開論文を引用する場合は、以下の例を参照し、巻(号)、ページの代わりに Digital Object Identifier (略称 DOI) を記載してください。発行年は、早期公開年です。

[例]

Lee K., Kouzaki K., Ochi E., Kobayashi K., Tsutaki A., Hiranuma H., Kami K., Nakazato K. (2013) Eccentric contractions of gastrocnemius muscle-induced nerve damage in rats. *Muscle Nerve*, doi: 10.1002/ mus.24120.

2) 単行本の書き方

書き方の原則は定期刊行物の項にしたがってください。

(1) 単行本全体の場合

著者名(発行年) 書名(版数、ただし初版は省略)発行所: 発行地. 引用ページの順の形式とします。なお、引用箇所が限定できない場合には、ページは省略します。また、編集(監修)書の場合には、「編」、「監」、あるいは「編著」と表記します。英文では編集者が1人の場合は (Ed.)、複数の場合は (Eds.) をつけます。



[例]

小澤治夫, 西端 泉 (2008) 最新フィットネス基礎理論－健康・運動指導者のための UP-DATE テキスト. 日本フィットネス協会 : 東京.

日本健康教育士養成機構編 (2011) 新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道. 保健同人社 : 東京, 22-32.

Allan A. Macfarlan (1958) Book of American Indian Games: New York. William D. McArdle, Frank I. Katch, Victor L. Katch (Eds.) (2009) Exercise Physiology, International Edition: Nutrition, Energy, and Human performance: Baltimore.

## (2) 翻訳書の場合

原著者の姓をカタカナ表記し、その後ろにコロン (:) をつけて訳者の姓名を記入します。共訳の場合は中黒で、訳者が 3 人以上の場合は「: …ほか訳」と省略して筆頭訳者だけ記入します。英文の翻訳書の場合、原著の書誌データは執筆者が必要と判断した場合に最後にく > 内に付記します。

[例]

ブルーム : 菅野盾樹ほか訳 (1988) アメリカン・マインドの終焉. みすず書房 : 東京, 21-26. < Bloom A. (1987) The closing of the American mind. Simon & Schuster: New York.>

## 3) WEB サイトの場合

著者名 (発行年) 表題名. 書名論文所在ページ. [訪問日付], サイト名 : URL とします。

WEB サイト (いわゆるホームページ) や WEB サイトに掲載されている PDF ファイルなどを参考文献とする場合、「URL が変更される」「内容が変更される」「WEB サイト自体が閉鎖される」「文責が曖昧である」などの問題があります。そこで、WEB サイト上の資料は、(1)他に参照可能な公刊物(書籍や学術雑誌等)がないことの確認、(2)著者名と題目およびサイトの名称の確認、(3)参照時の URL および日付の記録、(4)内容の適切な保存 (当該ページのプリントアウト等) を行った上で用いてください。そして、文献表には「著者名 (発行年) WEB ページの表題名、WEB サイトの名称、URL、(参照日)」をできる限り詳細に記載してください。なお、学術団体等が発行する電子ジャーナル、などは、「1) 定期刊行物」としてあつかいます。

[例]

警察庁統計資料 (2013) 平成 24 年中における水難の概況.

[http://www.npa.go.jp/safetylife/chiiki28/h24\\_suinan.pdf](http://www.npa.go.jp/safetylife/chiiki28/h24_suinan.pdf) (参照日 2014 年 1 月 20 日)

## 6. 欧文抄録について

必ず、欧文（原則として英語）による 300 語以内の抄録を添えてください。なお、同時に欧文抄録の和訳文（600 文字以内）を添付してください。

また英文二より投稿の際には和文抄録を添付してください。

この抄録には、原則として研究の目的、方法、結果、および結論などを簡明に記述してください。

### 1) 英文抄録の作成にあたっては、特に次の点に留意してください。

- (1) 日本国内で知られている固有名詞でも、海外の読者に知られていないようなものについては、簡単な説明を加えてください。
- (2) 句読点としてのコンマおよびピリオドの後は 1 文字あけてください。
- (3) 省略記号としてのピリオドの後はあけないでください。

## 7. 謝辞、付記など

公平な審査を期するために、謝辞および付記などは原稿「受理」後に書き加えることとし、投稿時の原稿には入れないでください。

## 8. 審査

- 1) 投稿原稿における掲載の可否は、査読審査をした後、編集委員会が決定する。
- 2) 著者が返送期日を超過しても修正原稿を提出しない、あるいは連絡が無い場合は取り下げしたものとみなす。
- 3) 査読は原則として 2 回とする。
- 4) 掲載論文の著者校正は初校のみの 1 回とする。

<平成 26 年 05 月 17 日 理事会にて承認>

<平成 30 年 05 月 12 日 理事会にて承認>